

別紙

「京丹後市総合計画基本計画（中間案）」に対する意見とそれに対する市の考え方

項目	意見要旨	考え方
健康づくりの推進	<p>食という字は「人を良くする」と書きます。申国では『医食同源』という言葉があります。人間にとって大切なのは、食事が人間の源となっている事実です。ある学者の健康直ではこう記載されています。</p> <p>欧米では1970年代肉食中心の食生活への反省が起こった。結果として、自然食や菜食を実践する人が増えてきた。</p> <p>多くの病気の原因が食事にあると考えられている。</p> <p>不健康な環境条件や電磁波などの不自然な人工環境による害も病気発生の原因と言われている。これらの点も検討されていかなければならない。</p> <p>戦後の日本では、欧米人の体力に追い付き、追い越せとの考えで、特に肉、卵、乳製品、を子どもたちに与えて成長に期待してきました。その結果、日本人の身体も増強し、他国の人々にも遜色のない状態に近付いてきたことはそれなりに成果があったと認められます。</p> <p>しかし、私の周囲で悪性ガンに倒れた人々の結果をみるにつけ、次のような食物の摂取が原因ではないかと担当されます(私は医師ではありませんので、根拠はありません)。</p> <p>肉、卵、乳製品、砂糖等をやめること。もしくは、その類いの食べ物を減らしていくこと。</p> <p>主食には、精米しない玄穀(現実的には五分付き、七分付き精米)、米、粟、小麦、大麦、とうも</p>	<p>国において、平成17年7月15日、国民が健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむため、食育に関する施策を総合的かつ計画的に推進すること等を目的とした「食育基本法」が施行されました。</p> <p>また、現在、内閣府のほうで食育推進計画が策定されており、京都府でも平成18年度末を目途に策定が進められています。</p> <p>本市の総合計画基本計画の中では、健康づくり支援の充実として、小中学校での食育を推進していくことを記載しています。また、「新・丹後王国の創造に向けて」では、地元の物をできるだけ使いましょうということと、「Buy(買う)地元」の徹底による地産地消を目指しています。</p> <p>食育については教育だけでなく、農業、保健・福祉といったように、幅広い分野に関係しており、これについては関係部署で集まって、同じ問題として考えていくことを確認しています。</p> <p>本市では、総合計画の実現にあたり、いただいたご意見を参考として、国や京都府と連携しながら、食育に取り組んでいく所存です。</p>

るこし、そばなどが良いとされています。

現代人の肉、卵、乳製品、砂糖等を多く使った食生活を改め、日本古来からの穀物や野菜を中心とした食生活に見直していくことが重要であると言われています。

学校給食等では実施するにはまだ現実的に困難ではあろうと想定されますが、家庭生活では実施可能でありますので、徐々に啓発活動をすすめて行かれることを検討して下さい。

有史以来、私たち日本人は菜食を中心として生き続けてきました。欧米では、その日本の伝統食である菜食中心の日本食が見直され、評価されてきています。

欧米社会がその価値を認めている中で、肝心の日本が自分たちの伝統的な食文化の価値に疎く、今もなお欧米型の食生活を推し進め、ガンや様々な病気を増やしていると言われています。

幸いに、私たちは京丹後市の農村部に生れ育ってきました。我が家で取れた米野菜、果物等を中心に食べて来ましたからこの丹後地方では長寿の方々が多いは当然の理でありましょう。

食文化の見直しとは特別難しい課題ではありません。現在続けている食生活を推し進めていくことだけあります。食文化の考え方の精神を教育と同じレベルの「食育」と言う範疇に加えて、ご検討願えれば京丹後市のこれから育っていく若い人々に警鐘を鳴らすことにもなり、意義あることと考えています。